

東洋製罐グループ、アルバルク東京とSDGsパートナー契約を締結 ～優勝カップ奪還&飲料カップ循環を目指す『Re-CUPプロジェクト』始動～



東洋製罐グループは、トヨタアルバルク東京株式会社（以下、アルバルク東京）と、SDGsパートナー契約を締結いたしました。アルバルク東京と一緒に、オンコートでは3度目のB.LEAGUE優勝を目指しながら、オフコートでは包装容器の資源循環にもチャレンジする『Re-CUPプロジェクト』を始動し、様々な取り組みや実証実験を重ねていきます。



写真左：トヨタアルバルク東京株式会社 代表取締役社長 林邦彦

写真右：東洋製罐グループホールディングス株式会社 代表取締役社長 大塚一男

優勝カップ奪還×飲料カップ循環を目指す『Re-CUPプロジェクト』

日本バスケットボール界を牽引し、世界を目指すアルバルク東京は、2021-22シーズンより社会的責任プロジェクト「ALVARK Will」を立ち上げ、地域やコミュニティの抱える課題やニーズに応える活動を実施しています。環境問題に対しても、アリーナでのプラスチックごみ削減の活動などを積極的に推進しています。

包装容器の業界を牽引してきた東洋製罐グループは、容器の製造販売だけでなく、「OPEN UP! PROJECT」として、これまで培った技術とノウハウで社会課題を解決する活動を進めています。これまで“ごみ”となっていたアリーナで利用する飲料カップを、再生・再利用できる“資源”に変えるため、カップ洗浄機やアルミカップの開発を進めています。

この度、2018-19シーズン以来となるB.LEAGUE制覇を成し遂げ、優勝カップ奪還「Re-CUP」を目指すとともに、飲料カップを再利用・再生・循環するもう1つの「Re-CUP」に向けてチャレンジをしていきます。

具体的な取り組み

アルバルク東京では2022-23シーズンからリサイクル可能な飲料用アルミカップ、および紙コップを資源として循環させるための「Re-CUP WASHER」を導入し、持続可能なアリーナ運営を目指して様々な検証を進めていきます。



アルミカップは、国内で96.6%のリサイクル率を誇るアルミ缶と同じ素材で出来ているため、回収すればまたアルミ素材へと生まれ変わることができます。更に、アルミ再生地金は新地金に比べ、**生産時のCO₂排出量を97%も削減**^{※1}することができます。

「Re-CUP WASHER」は紙コップを“可燃ごみ”から“循環資源”へと変えるための仕組みです。通常、飲み残しや汚れなどの残渣があることで、アリーナでの飲料用紙コップは産業廃棄物（可燃ごみ）となりますが、利用者の方がご自身で“洗う”というワンアクションを行うことで、再生紙原料に生まれ変わることができます。

※1 アルミ1kg生産するのに排出されるCO₂量（単位：kg-CO₂）

（出典：（社）日本アルミニウム協会「アルミニウム新地金および展伸材用再生地金のLCIデータの概要」）

ぜひ、アリーナで体感ください

ホーム開幕戦（2022年10月7日、8日 千葉ジェッツ戦）において、アルミカップ入りのビールを販売予定^{※2}です。以降の販売日程はアルバルク東京公式Twitterをご確認ください。

「Re-CUP WASHER」はホーム戦試合日に設置します。カップを洗浄して回収ボックスに返却することで、アルバルク東京公式LINEアカウント内にある、ショップカードのスタンプポイントが貯まり、貯めたポイントに応じてグッズが当たるなどのキャンペーン^{※3}を実施します。

※2 アルミカップはなくなり次第、紙カップでのご提供となります。

※3 スタンプの付与方法、グッズの内容等はアルバルク東京公式Twitterで発信します。

東洋製罐グループのオープンイノベーションプロジェクト「OPEN UP! PROJECT」

東洋製罐グループは、2019年、創業以来100年にわたり培ってきた容器の技術やノウハウを活用し、一人ひとりが抱える社会課題を解決し、持続可能な未来の暮らしを創るオープンイノベーションプロジェクト「OPEN UP! PROJECT」を開始いたしました。今後もアルバルク東京と一緒に様々な社会課題解決に挑んでいきます。



アルバルク東京 代表取締役社長 林邦彦様よりコメント

弊社は昨シーズンより、社会的責任活動「ALVARK Will」プロジェクトを立ち上げ、SDGsの達成、とりわけ環境問題の取り組みを強く推進しております。今シーズン、東洋製罐グループホールディングス株式会社様のご支援を受け、アルバルク東京ホームゲーム会場における産業廃棄物の削減、リサイクル推進へ大きな一歩を踏み出すことができました。資源循環社会の実現に向け、会場内のごみの削減に留まらず、スポーツを通じた広い発信力を活かして、社会のご理解・ご協力の促進を進めてまいります。

東洋製罐グループホールディングス 代表取締役社長 大塚一男よりコメント

資源循環社会の実現は、包装容器メーカーとしての課題であり、使命でもあります。一方で、そのためには社会や消費者の皆様のご理解とご協力が必要不可欠となります。この度、スポーツの枠を超え、ファンや地域と社会貢献活動を推進しているアルバルク東京様と一緒にできることを非常に心強く思っています。アリーナに足を運んでくれた方々が、楽しく環境貢献できる仕組みを一緒に作っていきたいと思います。



東洋製罐グループの長期経営ビジョン

当社グループは、社会や地球環境について長期的な視点で考え、すべてのステークホルダーの皆様提供価値が最大化するよう、2050年を見据えた「長期経営ビジョン2050『未来をつつむ』」を2021年5月に策定しました。当社グループの目指す姿・ありたい姿を「世界中のあらゆる人びとを安心・安全・豊かさでつつむ『くらしのプラットフォーム』」と位置づけ、「多様性が受け入れられ、一人ひとりがより自分らしく生活できる社会の実現」「地球環境に負荷を与えずに、人々の幸せなくらしがずっと未来へ受け継がれる社会の実現」を目指し、事業活動を推進してまいります。

会社概要

会社名：東洋製罐グループホールディングス株式会社

創立：1917年（大正6年）6月25日

代表者：取締役社長 大塚一男

本社：〒141-8627東京都品川区東五反田二丁目18番1号大崎フォレストビルディング

URL：<https://www.tskg-hd.com/>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

サステナビリティ推進部 コーポレートコミュニケーショングループ

TEL：03-4514-2026